

令和元年度第4回 社会教育委員会議
議 事 要 旨

1. 開催日時：令和2年3月24日（火） 10:00-10:45

開催場所：八尾市立青少年センター4階 会議室

出席委員：村尾委員、二宮委員、藤田委員、田中委員、山下委員、
吉田委員、中西委員、松井委員、中道委員（順不同）

2. 議事案件

1 令和元年度第3回社会教育委員会議録の承認

2 報告事項

- | | |
|----------------------------------|-----|
| (1) 生涯学習スポーツ課関連事業実施状況について | 資料1 |
| (2) 令和元年度若者活躍場づくり事業の実施結果について | 資料2 |
| (3) 令和元年度八尾市指定文化財の決定について | 資料3 |
| (4) 今東光資料館春季企画展の実施について | 資料4 |
| (5) 市内図書館の行事等について | 資料5 |
| (6) 令和元年度第2回がんばる「八尾っ子」応援事業表彰について | 資料6 |
| (7) 令和2年度・令和3年度青少年指導員委嘱状交付式について | 資料7 |
| (8) 第67回八尾市成人式の報告について | 資料8 |

3 その他

- | | |
|-----------------------|-----|
| (1) 社会教育委員市民委員の公募について | 資料9 |
|-----------------------|-----|

3. 議事の概要（○：委員、●：事務局）

1 令和元年度第3回社会教育委員会議録の承認

※全委員異議なし

2 報告事項について

-) 今東光資料館春季企画展のリーフレット（資料4）については、インパクトのあるデザインが素晴らしい。ただ、裏面が白紙なのがあったいなく感じ、展示の趣旨など必要な情報を掲載すれば、さらに良かった。今後の参考にしたい。
-) 子どもの学力低下は、読書離れが影響しているとも言われている。学力調査結果においても、八尾市は全国並びに大阪府の平均を下回っている。八尾市の小中学生の読書離れという視点から、本の貸出のべ人数において小中学生の全体に占める割合はどうか。
-) 平成30年度の貸出のべ人数では、全体637,874人のうち、小中学生78,924人で、12.4%である。
-) ヤングアダルト層の活字離れ対策として、いかに本に親しめる機会を創るかが鍵となる。図書館が行うイベントについては、小中学生を対象にするものが少ない。子どもたちが図書館へ通える環境づくりが重要であるが、どのように学校と連携しているか。

-) 学校図書館を通じて様々な連携も行っている。例えば、小学校の場合、図書館サポーターの研修会や社会見学の受入れを行っている。中学校の場合、職業体験の受入れ、ビブリオバトルの開催、学校の「調べ学習」での資料の提供も行っている。今後も、さらに学校との連携も深める取り組みを行っていききたい。
-) 学力の向上を目指して、学校と社会教育が一緒になって高めていってほしい。
-) 秋田県では、小中学校で始業前毎朝 30 分自分の好きな本を読む習慣を実践したことが、県全体の成績向上に影響しているという報道もあった。
-) 学校と図書館の物流のシステムはあるのか
-) 定期的に物流させるシステムはないが、学年、学級、放課後児童室などの学校貸出や団体貸出は行っている。また、学校も含めた市内 21 か所ある移動図書館も活用が可能である。
-) 計画的に学校図書館を活用することが鍵となってくる。近年は、「考える読書」「調べる読書」が二本柱である。その意味で、「考える」「調べる」本が市立図書館と学校図書館で行き来し、循環していることが重要である。本を上手に循環させれば、図書館に行かない子どもでも日常的に本に触れることが可能になる。市の資産として本の価値もより高まると感じる。
-) 他市の状況や事例も踏まえながら、今後も検討していきたい。

3 その他